

# 導入しやすい契約形態

0円 初期費用は無料 0円 解約費用なし 1ヶ月ごとに契約更新できる

機能限定のお手軽なプラン	一番人気のおすすめプラン	家族の安否も確認できるプラン	グループ会社も利用できるプラン
<b>ライトプラン</b> 月額 6,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input type="checkbox"/> ファイル添付 <input type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<b>プレミアプラン</b> 月額 8,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<b>ファミリープラン</b> 月額 10,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<b>エンタープライズ</b> 月額 14,800 円(税抜) 上限ユーザー数 50 ユーザー ご利用可能な機能 <input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input checked="" type="checkbox"/> API人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 差出人名変更 <input checked="" type="checkbox"/> グループ会社との利用

※51ユーザー以上のご利用や月額料金よりもお得な年間契約の詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://www.anpikakunin.com/price>



## 全国のさまざまな業界の企業が導入

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



他社からの乗り換えに限らず、さまざまな事例が多数掲載中 [安否確認サービス2 事例](#)



サービスに関するお問い合わせは、安否確認サービス2 Webサイトへ  
<https://www.anpikakunin.com/>

※他社登録商標・商標をはじめ、当社のサイトその他カタログ、マニュアル等に記載されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。  
<https://www.toyoukumo.co.jp/copyright>  
 ©トヨクモ株式会社 | Toyokumo, Inc.

お問い合わせ先

本カタログの記載事項は変更になる場合がございます。

2023年8月版

# 安否確認サービス2 導入事例

## 医療業編



# 目次

## 03 導入実績

## 04 大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

## 08 ユーザー事例5選

### 事例1 医療法人慈光会 甲府城南病院

防災マニュアル全面改訂プロジェクトを立ち上げ  
緊急時の職員参集の強化を実現

### 事例2 社会医療法人令和会 熊本整形外科病院

安否確認を自動化  
少人数での迅速な初動対応を実現

### 事例3 社会医療法人寿会 富永病院

災害協力病院として災害時の初動対応を確実に

### 事例4 広島医療生活協同組合広島共立病院

災害時の安否状況把握を完全自動化  
憶測だった初動対応を確実なネクストアクションの判断へ

### 事例5 医療法人回精会北津島病院

安否確認サービス2で災害からパンデミックまで幅広くカバー

## 18 地震、津波、特別警報に連動！ メンバーを限定した会議もできる

## 20 安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

## 22 無料お試し・導入相談

## 3,000社以上が導入中

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



他社に比べ安価なサービスである点、かつ追加費用なしで質問のカスタマイズやスマートフォン用のアプリケーションなど、必要な機能が揃っている。

甲府城南病院/石川さん



トヨクモさん主催の一斉訓練が緊急連絡網運用訓練の代替になったことですね。この点は他の医療機関様にも強くお勧めしたいです。

熊本整形外科病院/土橋さん



システムを軸にマニュアルを作成したほど、安否確認サービス2は当院の災害対策に欠かせないものとなり非常に心強い存在です。

富永病院/長内さん



医療機関のBCPは最初の1時間が勝負と言っても過言ではないので、そこに対しての最も有効な手段が安否確認サービス2だと思っています。

広島共立病院/皆川さん

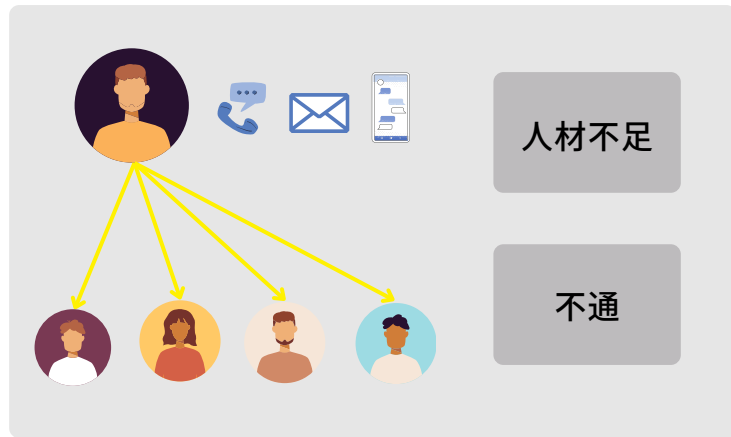


訓練開催時は事前に連絡が来てワンクリックで参加ができる、訓練後は詳しいレポートが届く、これらがすべて無料となると利用しない手はありません。

北津島病院/目代さん

# 地震、津波、特別警報に連動！メンバーを限定した対策会議もできる

## 1 人材不足、連絡の不通で安否情報などの収集ができない

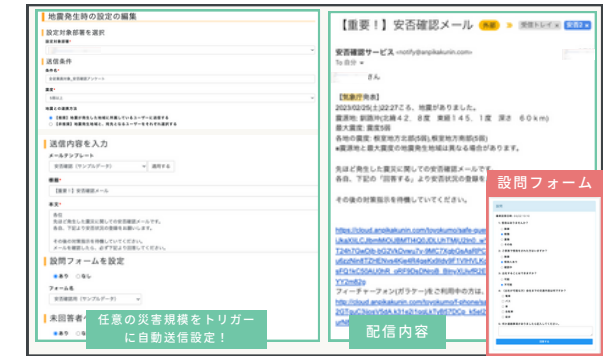


特定の担当者が災害時に電話やメール、SNSで従業員の安否確認や取引先の被災状況を確認すると膨大な時間がかかる。タイミングによっては、通信回線の輻輳で不通になることも少なくない。

## 安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、安否確認を自動化！

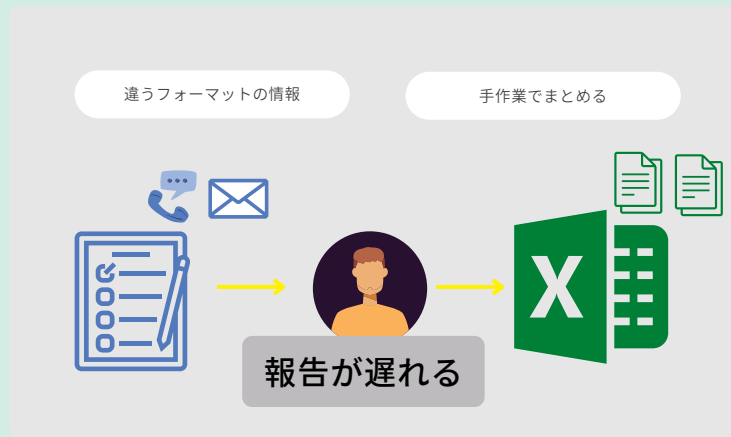


気象庁の地震/津波/特別警報の発令に連動した、メールの自動送信の設定ができます。連絡の手間や漏れ、時間外労働を削減することができます。



送信条件の項目、メールや設問フォームのテンプレートを選ぶだけ。簡単に自動送信の設定を作れます！

## 2 回答の集計に時間がかかって、報告が遅れる



電話やメール、SNSなどさまざまなフォーマットで情報を受け取り、Excelなどにまとめるのは大変。入力ミスや漏れに注意する必要がある。

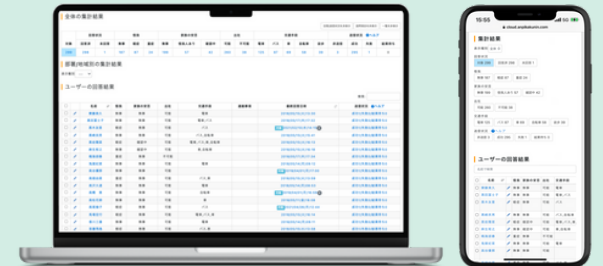
## 安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、集計を自動化！

設問フォームに回答があると管理者に通知が届きます！



ID/パスワードの入力不要！クリックするだけで集計画面にアクセスします。

自動集計の結果をさまざまな端末から確認できます！



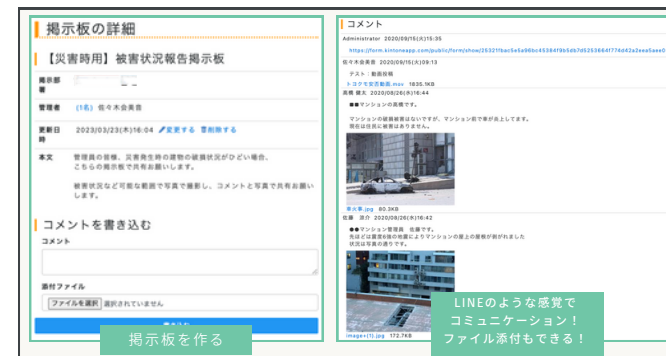
## 3 出社ができず、コミュニケーションが取れない



通信回線の輻輳で、円滑なコミュニケーションが取れず、事業復旧の対策を議論することができない。また、従業員へ情報伝達が遅れ、一時的に事業が停止してしまうこともある。

## 安否確認サービス2で解決！ オンラインでどこでも対策会議ができる！

全ユーザーとオンラインでコミュニケーション



特定のメンバーで議論




最大200ユーザーを宛先に指定できるコミュニケーション機能です。防災担当者の議論スペース、各部署の連絡用、1対1のやり取りなどに活用できます。

事例1

# 防災マニュアル全面改訂 プロジェクトを立ち上げ 緊急時の職員参集の強化を実現



	<b>医療法人慈光会 甲府城南病院</b>	
	<b>事業</b> 医療・福祉 <b>従業員数</b> 301名~1,000名	<b>お話を伺った方</b> 事務部業務課長 石川さん

課題

- ・緊急連絡網で安否確認を行っていたが、かかった時間しか分からず、従業員がどのような状態であるのかなど必要な情報を収集できていなかった
- ・電話連絡で不通だった職員の安否情報の収集ができなかった

効果

- ・職員の安否情報を詳細に早く収集が可能になった
- ・全職員から安否情報を収集、回答率が大幅に向上した

詳細はこちら

<https://www.anpikakunin.com/case/kofujonan>

## 緊急連絡網で安否確認はできていなかった

一安否確認サービス2を導入するまで、緊急時はどのように連絡をとっていましたか？

石川さん：個人の携帯電話番号を利用した、組織図に沿った連絡網は作成していました。

年1回訓練を行ってはいましたが、何月何日の20時から、といった形で事前に告知を行い、また連絡内容も「緊急連絡網です、回してください」といったような簡単なものでした。電話に出ない人は飛ばしてしまいましたが、その後掛け直すようにしていたわけでもないので、集計を行なうにしても最初の人から最後の人まで電話が回るのに掛かった時間しか分からず、訓練といっても形だけのものになっていました。

実際に緊急連絡網を使ったのは3年前、2014年2月14日に発生した大雪の際ですね。その際も安否確認を行なったわけではなく、16日の午後、「明日車で来てても駐車場の除雪が進んでいないので、乗り合いをしたり、送ってもらったりしてください」という業務連絡を行なったのみです。

一安否確認サービスを検討し始めたきっかけは何ですか？

石川さん：東日本大震災をきっかけとして、防災マニュアルの全面改訂がプロジェクトとして立ち上がりました。しかし、防災マニュアルも作成してみると大変で、なかなか目処が立たなかったんです。なので常設化して検討しようという話になり、2014年の4月1日に災害対策検討会を正式に立ち上げました。

その災害対策検討会には5つの大きな掌握事項があり、防災マニュアル、防災訓練、備蓄、地震を中心とした災害対策、そして5番目がBCPです。

このBCPを策定する中で、緊急時の要員の参集のためには安否確認は重要な要素となるので、従来の電話による連絡網ではなく、別の手段を導入すべきではないかといった機運が高まってきたため、安否確認システムの導入を検討し始めました。

## 安価、設問フォームのカスタマイズ、プライバシー性が高いことが導入の決め手

一導入はスムーズに進みましたか？

石川さん：知識がないと意見も出ないし、サービスの検討も進まないのので、災害対策検討会の立ち上げ後、展示会に参加したり、防災士や、防災危機管理者の資格を取ったりして、知識を付けました。そして8社ほどの資料を取り寄せて、比較表を作成して検討を行い、最終的に2社に絞りました。トライアルを行なってみて、代理店が甲府市内にあること、システムがシンプルなることを理由に、他社システムが一度優勢になりましたが、シンプルすぎてカスタマイズの余地がなく、質問項目の編集がユーザー側でできないところが懸念事項でした。

次にトヨクモの安否確認サービスのトライアルを行い、一斉送信の文面が自由にカスタマイズでき、「出社できますか」ではなく「登院できますか」といった表現に変更できる点が気に入りました。また、他社に比べ安価なサービスである点、かつ追加費用なしで質問のカスタマイズやスマートフォン用のアプリケーションなど、必要な機能が揃っている点は良いと感じました。病院は女性が多いこともあり、メールアドレスを勤め先に知らせることなく、利用できる点もよかったです。ホームページに資料や製品のマニュアルを公開されている点に関しては自信があるんだなと感じましたね。

## 全職員の安否確認を実現

一導入後、実際に使ってみていかがでしたか？

石川さん：最初の登録時にはCSVに馴染みがなかったこともあり戸惑いましたが、用意されているサンプルを編集してやってみたらすんなりと登録できました。階層や地域の設定もできるし、一斉送信に関しては、1人のみを対象にして送信ができるのはいいですね。新しく入ってきた人が正しくメールアドレスを登録したか、アプリをダウンロードしたかも確認できるし、訓練のときや災害時にはこのような文面でメールが来るという周知もできます。一斉送信をしても、管理者全員に知らせない選択もできるので、便利に利用しています。職員への導入に際して工夫したこととしては、iPhoneとAndroidとガラケーで、連絡先の登録方法と、一斉送信を行なう際の回答方法のマニュアルを作成して、院内で使っているグループウェアで共有して周知を図りました。

昨年12月に初めて訓練を行ないましたが、最初は職員に戸惑いもあったものの、その日のうちに半分くらいの職員からは回答を得て、最終的にはほぼ全ての職員から回答がありました。メールアドレスが未登録のユーザーや間違っているユーザーは一覧で確認できるようになっているので、該当するユーザーがいた場合は、その部門の責任者経由で正しい登録をお願いし、回答できない人を一人一人減らして行っています。年4回程度訓練を行い、浸透させていきたいと考えています。

## ご担当者様から一言

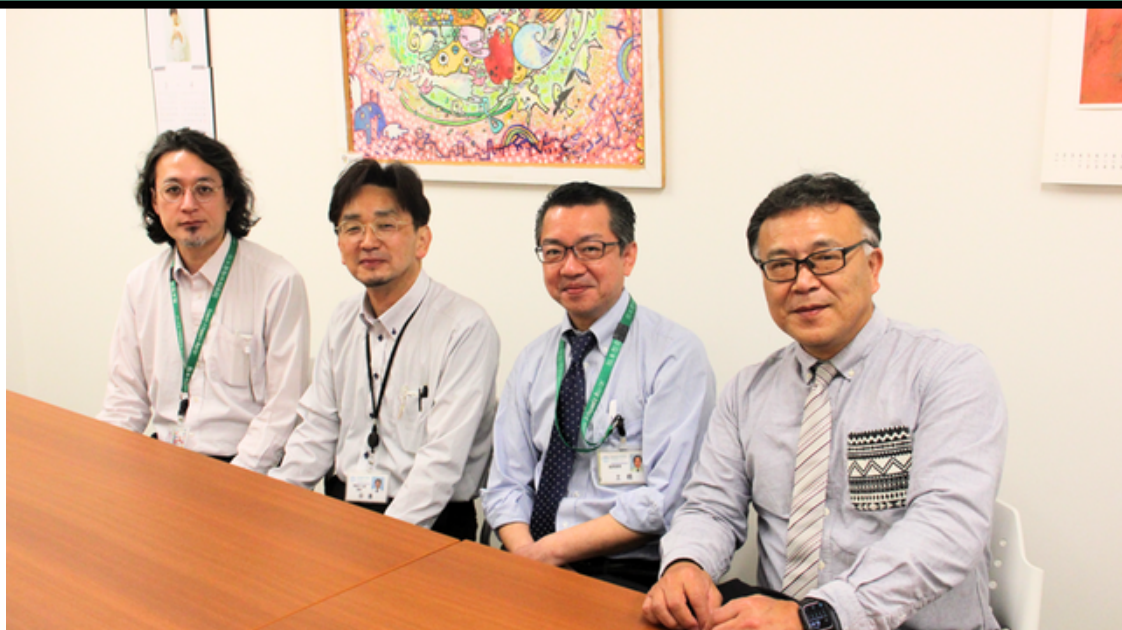
山梨県内では津波は考える必要が無いので、やはり災害といえば地震になります。東海地震が発生した際には、震度6弱や6強も予想されます。山梨県内で震度5強以上の場合に、一斉送信を行なう設定にしています。その他の災害に関しては災害対策検討会の上部組織である災害対策委員会のメンバー（当法人の理事）と協議の上、手動で一斉送信を行なう予定です。災害時には、掲示板やメッセージ機能を部門や部署ごとの連絡に利用したいと思っています。この辺りの運用に関しては、現在検討を行なっているところです。


こちらからこれから検討する部分となりますが、掲示板やメッセージ機能を、各部門・各部署内の緊急時や、平常時の連絡ツールとして利用したいと考えています。

事務部業務課長 石川さん

事例2

# 安否確認を自動化 少人数での迅速な初動対応を実現



	<b>社会医療法人令和会 熊本整形外科病院</b>	
	<b>事業</b> 医療・福祉 <b>従業員数</b> 301名~1,000名	<b>お話を伺った方</b> 事務次長 吉永さん 総務課課長 土橋さん 情報システム課課長 田邊さん・主任 西さん

課題

- ・2016年の熊本地震で電話が繋がらず緊急連絡網を活用した職員の安否確認を迅速に行うことができなかった
- ・安否確認などの被災状況の収集にあてる職員が不足していた

効果

- ・メール、専用アプリ、SNSなど複数の連絡先を確保し、災害時の確実な安否確認を実現
- ・安否確認にかかる連絡や集計、報告などの業務を解消

詳細はこちら

<https://www.anpikakunin.com/case/kumasei>

## 「患者さんの安心、安全」を第一に

一事業内容について教えてください。

吉永さん：当院は熊本市の中心に位置し、204床の病床を有する整形外科専門病院です。病院の基本として「病める人に愛と奉仕を 己の仕事に誇りと責任を 組織の中に英知と秩序を」そして理想の医療に向かって一歩一歩前進しよう」という理念のもと診療を行っています。

一導入のきっかけは何でしたか？

田邊さん：2016年に発生した熊本地震で、職員の状況を迅速に確認できなかったことがきっかけですね。安否確認サービス2を導入する前は、病院で策定した緊急連絡網を使って電話で職員の状況を確認していました。ところが、実際に熊本地震が発生した時、電話が繋がらず職員と連絡が取れない状況になってしまったんです。

土橋さん：熊本地震で最も大きな問題だと感じたのが、夜間の問い合わせ対応です。熊本地震は夜間に発生しましたから、当直の事務職員は1人しかいませんでした。とても多くの問い合わせをいただいたのですが、事務職員1人では、職員の参集など病院としての機能を失わないための対応もあり、外部への対応が間に合いませんでした。また職員が集まったとしても、被災した状況では優先すべき業務が平常時以上にあります。そんな状況で、病院内にいた職員は業務外の対応までこなすことになり、大きな負担となったことが後に課題となりました。そういった問題点が浮き彫りになったこともあり、災害時の被災情報の収集に関する仕組みの見直しを検討しました。

## 使いやすく抵抗感なく導入、一斉訓練で無理なく定着

一少数ある安否確認システムの中から「安否確認サービス2」を選んだ決め手はなんですか？

田邊さん：トヨクモさんの安否確認サービス2を実際に触ってみて、すぐに「これは使えるな」という感覚がありました。サーバーが国外にある点もよかったですね。国内サーバーの場合、万が一被災してしまうと、システムの停止やデータの消失などが起こる可能性が多いにあります。国外のサーバーをメインとして使用している安否確認サービス2であれば、国内の災害に強い仕組みだということに安心感がありました。

土橋さん：トヨクモさん主催の一斉訓練が緊急連絡網運用訓練の代替になったことですね。以前は電話を使った緊急連絡だったので、準備と訓練に何時間もかかっていました。それが安否確認サービス2を使って、トヨクモの一斉訓練で行えるというのは病院として大きなメリットになりました。

一導入はうまく進みましたか？

土橋さん：そうですね。管理者側としては初めから非常に使いやすいと感じていましたし、職員側も特に問題はなかったようです。職員に対して「災害時の安否確認を行う専用システムを導入しますよ」と簡単に事前説明はしましたが、それだけですんなり運用が始められたので、それから何の問題もなく今に至っているという感じです。システム導入時、300名以上のデータをCSVで一括登録できたというのも、スムーズに導入できた理由の1つだと思います。

現在は入職や退職といった人の出入りが多くないので、アカウント毎に登録や削除作業を行っています。300名以上のデータを一つ一つ登録する手間を考えると、さすがに現実的ではありませんね。安否確認サービス2は、職員情報をまとめたCSVファイルを読み込むだけで行えたので非常に助かりました。

## 安否確認や安否回答の集計を自動化、職員とのコミュニケーションもスムーズに

一導入後の成果や変化について教えてください。

土橋さん：災害時の職員の安否確認に関しては、従来の仕組みが大幅に改善されました。現在は、震度5強以上の地震が起きた際に職員に対して自動で安否確認メールが送信されます。課題となっていた、電話連絡の手間や電話が繋がるまでかけ続けたりする必要が一切なくなりました。そのため、夜間や休日であっても当直の事務職員のみで対応が可能です。

従来のような、電話を使った安否確認の場合は、連絡のタイミングを逃すと情報が得られませんよね。その連絡手段が安否確認サービス2になったことで、安否確認連絡の受け手となる職員も連絡に出て回答するという負担がなくなっているようです。このように、管理者と職員双方の負担が減ったというのはメリットだと感じています。

導入後、未だ熊本地震のような災害は起きていませんが、いざという時には病院にいながら全職員の状況を把握できるようになったと感じています。

## ご担当者様から一言

当院で導入している人事管理システムと安否確認サービス2を連携して、平時のメンテナンスの簡略化を目指したいと考えています。

そうやってしまっただけでは、安否確認システムを導入した意味が全くありません。だからこそ、職員の情報を定期的にメンテナンスすることは重要だと考えています。


緊急時に使うシステムですから、定期的に職員の情報をメンテナンスしなければ、登録情報が古くなり、いざという時に安否確認の通知がされず、被災状況の確認ができないという事態に陥る可能性があります。

引き続き、安否確認サービス2を最大限活かすための活動心がけていきたいですね。

情報システム課課長 田邊さん

## 事例3

災害協力病院として  
災害時の初動対応を  
確実に迅速に

	<b>社会医療法人寿会 富永病院</b>	
	<b>事業</b> 医療・福祉 <b>従業員数</b> 301名～1,000名	<b>お話を伺った方</b> 救急部・地域医療連携室 西村さん

## 課題

- ・災害時、職員の安否状況の把握に時間がかかっていた
- ・回答結果の集計を行えていなかった

## 効果

- ・回答結果の集計を自動化、また管理側が自由に結果を確認できるようになり報告作業も手間や時間がかからなくなった

[詳細はこちら](https://www.anpikakunin.com/case/tominaga)
<https://www.anpikakunin.com/case/tominaga>
地域の災害協力病院としての役割を果たすために  
安否確認サービス2を導入

一どのような立場から防災関連の業務に携わっているのでしょうか？

西村さん：平成28年頃に院内で救急部を開設することになり、当時私は医事課職員として従事していました。救急部の立ち上げに際し、救急外来の医師や看護師との連携をはじめ事務関係の業務を行うという形で私も参入し、現在は医事課、地域医療連携室の業務を兼務しています。業務と災害対策に関連はありませんが、救急部の前任者が病院の防火・防災管理者を担っていたためそのまま引き継ぐこととなり、防火・防災管理者の資格を取得するに至りました。当時院内には災害対策委員会がありませんでした。災害マニュアルは院内にありましたが、実用性のあるものはいませんでした。しかし、自分が管理者になるにあたって、万が一の場合に刑事罰を受ける立場になるということを自覚し、院内での災害対策委員会の立ち上げを訴え、平成29年12月頃に委員会が発足しました。

一災害対策委員会の発足後、どのように災害対策を進めましたか？

西村さん：まずは各部署から1名選任して集まり、既存のマニュアルを一旦撤廃することから始めました。経験を積んだ救命士や救急外来の認定看護師、その他災害に関して知識のあるスタッフに協力してもらいながら、白紙を埋めていったという感じです。

その後3年ほどは特に活動実績も残せない状態だったのですが、年数を重ねるごとに意識の高い看護師などが集まり、徐々に災害対策委員会の規模も大きくなってきました。その中でアクションカードやトリアージポストなど、より実践に近い内容の意見が交わされるようになり、BCPの一環として安否確認システムの導入をしてはどうかという声が上がりました。

## 安否確認サービス2の導入を機に院内の防災体制を強化

一安否確認システム導入の意見が出たと伺いましたが、他にもきっかけになった出来事がありますか？

西村さん：当時、安否確認に関して全く無知の状態であったというのが正直なところです。そんな中、台風21号の災害時に最も連絡が取りやすかったのがLINEだったこともあり、まずLINEWORKSを導入しました。ただし災害用ということではなく、管理職のグループLINEという位置付けで運用が始まり、その中に「災害メンバー」というグループが作られたという形です。

しばらく有事の際は所属長が個々の状況を確認し、結果を本部に報告するという流れで運用していましたが、全職員の安否を把握するには各所属長からの連絡を待つ以外に方法がなく、結局は個人のLINEに頼っている状況となっていたことが課題でした。

一当時はLINEでやり取りされていたとのことですが、そこに集まった情報を災害対策委員会で集計や報告をしていたのでしょうか？

西村さん：集計作業は全く行っていませんでした。そもそも安否確認サービス2を導入するまでは、そういった仕組み自体が存在しておらず、決められた参集職員が集まる形での運用でしたが、システム導入を機に体制を整えたという形です。

安否確認サービス2を導入したことで、現在は管理職が集計結果を自由に閲覧できるようになったので、集計や報告作業も必要なく非常に助かっています。

## 災害時だけでなく普段使いもできることが魅力だった

一数ある安否確認システムの中から、トヨクモの安否確認サービス2を選んでいただいた理由について教えてください。

西村さん：当院はセコムと契約していることもありセコムとアルソック、トヨクモ3社のシステムをトライアルという形で体験させていただきながら比較検討しました。その中で、災害対策委員会のスタッフ複数名からトヨクモが1番使いやすいという意見が出たんですね。

LINE連携など多くのメリットが挙がりましたが、中でもアプリがあること、メール登録で運用できること、掲示板やアンケート機能が簡単に利用できることが非常に大きかったです。また、他社と比べ、安価で多くの機能を利用できるというのも導入のきっかけになりました。

一ありがとうございます！導入前に3社のトライアルをされたとのことですが、実際に使ってみていかがでしたか？

西村さん：明らかな違いとしては、他社のシステムはあくまでも安否確認用ツールという位置付けだったのですが、トヨクモの安否確認サービス2だけは普段使いもできる印象がありました。実際、日常的な業務連絡などの集計も取りやすく、幅広く活用できています。安否確認のみならず、普段から業務の一環として取り入れることができるというのが最大の違いであり魅力でした。

## ご担当者様から一言

システムを軸にマニュアルを作成したほど、安否確認サービス2は当院の災害対策に欠かせないものとなっており非常に心強い存在です。

一方で、当院では掲示板におけるグループやメンバーの振り分けを総務部が行っているのですが、その作業を発信者側が簡単にできるような仕組みを作っていただけると、さらに使い勝手がよくなると思います。


災害対策委員会というグループを作成したとしても、途中でメンバーが変わることが多いので、例えばラインのように誰でも簡単にグループを作成したり、出入りしたりできる機能があれば、その都度総務部に依頼する必要がなくなり、タイムラグも解消されると思うので、ぜひ検討していただけるとありがたいです。

救急部・地域医療連携室 西村さん

## 事例4

## 災害時の安否状況把握を完全自動化 憶測だった初動対応を 確実なネクストアクションの判断へ



	<b>広島医療生活協同組合広島共立病院</b>	
	<b>事業</b> 医療・福祉  <b>従業員数</b> 301名～1,000名	お話を伺った方 事務長室 皆川さん

## 課題



・緊急時の安否確認は職責者の連絡網や職場内独自の連絡手段に頼っていた。

・職員の被災状況、地域の被災状況把握など情報収集に時間がかかっていた。

・一斉送信メールシステムを導入したが実用レベルには達しなかった。

・「〇人程度は集まるだろう」と憶測で初動対応を決めていた。

## 効果



・短時間で安否確認と参集が可能になった。

・参集できる人数を把握した上で初動対応ができるようになった。

・職員の安否確認だけでなく地域の被災状況も把握できるようになった。

[詳細はこちら](#)
<https://www.anpikakunin.com/case/hiroshimairyo>

## 確実に人員を確保するために安否確認サービス2を導入

一どのような立場で災害対策に関わっておられますか。

皆川さん：私は事務長室に所属し、BCP事務局として災害対策業務を担っています。一方でDMATの業務調整員として広島県の災害対策にも取り組んでおり、院内のマニュアル整備や設備の調整、防災備蓄の見直し、研修の采配など幅広く担当しています。近年DMATもBCPを重視し、初動対応から病院の立て直しを優先的に支援していく方向になりつつありますので、当院のチームメンバーにそういった話をする機会も多いですね。

一病院ならではのBCPの考え方というはあるのでしょうか。

皆川さん：病院としてはやはりマンパワーが何より重要なんですよ、いくら設備が整っていてもスタッフが揃わないと十分な医療が提供できません。災害時は患者さんが増えますが、指示する医師、動ける看護師がいて初めて成立します。さらに動けない患者さんを搬送するとなると一度に3～4人の人員が必要になるので、いかにマンパワーが集まるかというのが1番重要な要素だと考えています。在庫のように、いざという時のためにストックしておくということができないので、この辺りが一般企業と大きく異なる点だと思います。

一いざ災害が発生した際はどのように参集されているのですか。

皆川さん：院内で参集基準が決まっています。大雨特別警報で病院があるエリアに避難指示が出た場合、外来患者さんを安全に帰すために人員が必要となります。また、震度5弱以上の地震が発生した際も、災害拠点病院として患者さんが運ばれてくるため、集まることになっています。その際は、安否確認サービス2の自動発動機能を使って安否確認を行い、その結果により招集をかける仕組みを構築しています。

## 有事の際、双方向での情報提供が可能に

一安否確認サービス2の導入はスムーズに進められましたか。

皆川さん：人事システムから情報を受け取り、Excel上のデータをCSVで一括登録できたので、導入準備には苦労しませんでした。社内展開に際しては、職員会議や院内のポータルシステムを活用し、各職場責任者が登録作業を推進しやすい状況を作るため、とにかく分かりやすい資料作成とレクチャーに努めましたね。それでも普及しない部署には直接出向いて集団指導を行い、現在はかなり高い普及率となっていると思います。初期設定を行う際スタートアップガイドを利用させていただいたのですが、若干簡素化され過ぎている印象がありました。もう少し図や動画を用いて解説していただくと、さらに初期設定も楽になると思います。ただ、トヨクモさんはサポート体制が充実していて、私も電話で細かい点まで丁寧に教えていただけたので、レスポンスの速さは非常に高く評価しています。

一安否確認サービス2を導入後、効果は感じられていますか。

皆川さん：導入後に大きな災害が起きていないので実用はできていませんが、コロナワクチン接種に関するアンケート調査を行ったり、事務部門においては制服コンペを行ったりとさまざまなシーンで活用させていただいています。システム自体が『安否確認サービス』という名称なので、活用法に疑問を抱くような意見が出たこともありますが、アンケートシステムが非常に有用なので、今後も幅広く活用していきたいと考えています。

## 憶測行動から確実な情報収集へ 大幅な仕組み改革に成功

一安否確認サービス2を導入し、職員の防災意識も変わってきたと感じておられますか。

皆川さん：少しずつですが、変わってきていると思います。当院では月に一度、月初めに安否確認サービス2を使った独自の定期訓練を行っています。未だに返答率は全体の80%程度ですが、1時間以内に返信する職員が増えてきましたし、有事の際はアプリを通じて病院へ連絡するという意識付けができてきていると感じています。また未回答者に対しては、自動再通知機能を活用して3時間ごとに通知が行くように設定しています。

一担当者として災害時の負担は軽減されそうですか。

皆川さん：職責者は有事の際アプリを確認するという流れを徹底しているので、従来のように個別にメールをしたり、電話をかけたりする手間が一切なくなり、私だけでなく各部署の職責者の負担は大幅に軽減されると思います。以前は、災害などが起きた際も「職員が来る」という前提で話が

進められていたので、実際に人が集まらなかった時の采配がうまくできませんでした。しかし、今では安否確認サービス2で動ける人数を瞬時に把握できるため、その結果からネクストアクションを考えることができています。憶測で動いていたものが、その時の状況に合わせて参集できる人員や人数を算出してからの確実な対応ができる仕組みに大きく変わりました。

一やっぱり災害時、一般企業と違い医療機関の需要は非常に高くなりますよね。

皆川さん：被災下でもどどん患者さんは来院するので、需要と供給のバランスが完全に逆転してしまうんですね。そこを24時間体制でどうカバーするのか、というのが医療機関のBCPとして最も重要な部分になります。集まれる人数により初動対応を決めなければなりません。安否確認サービス2のおかげで憶測ではなく確実な情報を基に判断できるようになりました。

## ご担当者様から一言

繰り返しになりますが、医療機関にとって最も重要となるのはヒューマンリソースです。災害の大小にかかわらず被害を受けた際、どれだけの職員が出動できるのか、それによって初動対応が変わってきます。安否確認システムがあれば、いざという時にも確実に、かつ迅速に安否確認ができ、連絡や情報周知ツールとしても幅広く活用できます。

医療機関のBCPは最初の1時間が勝負と言っても過言ではないので、そこに対しての最も有効な手段が安否確認サービス2だと思っています。

事務室長 皆川さん

事例5

安否確認サービス2で  
災害からパンデミックまで  
幅広くカバー



	<b>医療法人回精会 北津島病院</b>	
	事業 医療・福祉	お話を伺った方 臨床心理士 目代さん
	従業員数 51名～300名	

課題

- ☹️ ・電話による緊急連絡網では最後の職員までつながらなかった
- ・個人情報の観点から緊急連絡網の作成、管理が難しくなってきた
- ・コロナ禍で集まることができず迅速な情報交換、周知が難しかった

効果

- 😊 ・有事の際、迅速かつ確実な職員の安否確認が可能となった
- ・緊急時の連絡先を手間なく一括管理できるようになった
- ・必要に応じて、全職員に対しタイムリーに情報周知ができるようになった

詳細はこちら

<https://www.anpikakunin.com/case/kaisei-kitatsushima>

有事の際の緊急連絡網の運用に限界を感じ  
安否確認システムの導入を検討

一どのような立場から防災関連の業務に携わっているのでしょうか？

目代さん：私は、臨床心理士として診療部の臨床心理室に勤務しています。普段は、子どもからお年寄りまで心理面の検査やカウンセリングなどを主に行っていますが、国内で大規模な災害が発生した際は、心理士として現地に赴きます。これまでも神戸や東北、熊本などへ実際に足を運び、心の専門家として被災者のケアを行ってまいりました。

そうした経験から防災への関心が強く、防災士という資格を取得した上で院内の防火管理者および防災対策委員会の中心メンバーとして活動しています。以前から安否確認システムの必要性は感じており、日常業務とは別に防災対策委員会の取り組みの一環として安否確認サービス2の導入にも初期から関わってきました。

一安否確認システムの導入前は、どのような課題がございましたか？

目代さん：医療機関が受ける厚生労働省や保健所の監査において、緊急連絡網の有無は必ず確認される項目の一つとなっているため、現在も従来の緊急連絡網を形として残しています。ただ平時であっても、勤務時間外は勤務先からの電話には出ないという人が多く、その上有事の際は電話が繋がりにくいという状況下で、当時電話で連絡をとるという作業にかかった時間と労力は相当なものでした。

また、当院には人事部にあたる部署がないということもあり、入退職や部署移動に伴う情報変更や管理をリアルタイムで反映させることが非常に難しく、併せて個人情報を他の職員に開示することに対して抵抗を示す職員が増えてきたことから、そもそも緊急連絡網を作成・配布すること自体ができなくなってしまいました。

安否確認サービス2だったからコロナ禍の情報共有がスムーズにできた

一安否確認サービス2の導入はスムーズにできましたか？

目代さん：大変だったのは、全ての職員に安否確認サービス2への登録を行ってもらうという点でした。現在も数名登録していない職員がありますが、原則として事前にトヨクモさんからご提供いただいたガイドを基に作成したチラシを全職員に配布し、研修と併せて登録を促しています。また、毎月6日にメールの送信テストを実施していただけるので、その結果を見てエラーが出ている職員などに対しては個別にアナウンスしています。

各自アプリで利用できるというのも大きく、中にはインストールが難しいという方もいますが、家族や職員間でフォローしながら特にトラブルなく活用できている印象です。

初期のユーザー登録においても、エクセルでCSVファイルを作成して一括登録を実行したので、作業に手間がかかった印象もありませんね。

一安否確認サービス2をどのように活用されているか教えていただけますでしょうか？

目代さん：皆さんもご存じの通り、新型コロナウイルス流行し始めた当初は本当に情報が少なくて困りました。そこで、感染症や感染対策など役に立つ情報は、安否確認サービス2の一斉送信や掲示板機能を活用し、できるだけ迅速に職員に提供できるようにしました。参考となる動画のURLを一斉送信して各自確認してもらったり、クラスターの状況を公開したりといった形です。

安否確認サービス2を導入しているという大きな安心感

一最後に、貴院の防災対策と安否確認サービス2に期待することについて教えてください

目代さん：当院の防災対策についてはBCPの作成が進まないなど悩みもありますが、現状としては緊急連絡・安否確認のためのシステムを導入できたということで安心しています。また、職員への連絡手段が複数あるということも安心して運用できる理由の一つですね。近年はメール機能自体を利用しない職員も増えているので、非常に頼もしいツールであるアプリは今後も残していただきたいです。

ご担当者様から一言

医療機関に限って言いますと、災害時に利用する公的なシステムとして「広域災害救急医療情報システム（EMIS）」というものがあります。建物の被害やライフラインの状況などを入力することでこちらからSOSを発信することができ、状況に応じてDMATが駆けつけるというシステムですが、安否確認サービス2にもそうした機能があるとより安心できると思います。

例えば、災害時SNSには真偽が判断しにくいSOSも多く、その中で安否確認サービス2を通して発せられたSOSであればリソースとして信頼できると判断される可能性もあるのではないのでしょうか。具体的なイメージは難しいですが、安否確認サービス2を通じて院外にSOSを発信できる機能があれば役立つと思います。

臨床心理士 目代さん



# 大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

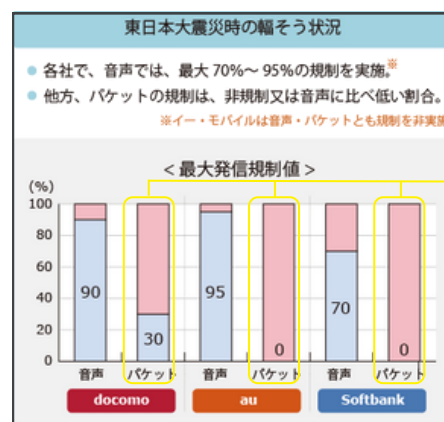
## 通信回線が輻輳する前に自動でアンケート付きのメールを送信

通信トラフィックのピークは発災後30分~1時間後にピークを迎えます。それまでにメールの配信を完了させることを目標としております。



※安否確認サービス2は、毎分100万通以上のメールを配信できる、SendGrid（センドグリッド）というメール配信システムを利用しています。

大規模災害時でもほとんど規制されることのない**パケット通信**のみで回答できる、ウェブ回答方式を採用しています。

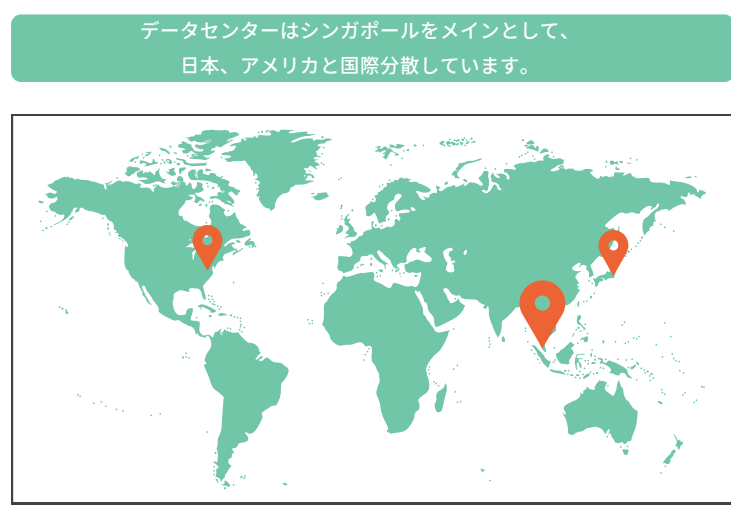


大手通信キャリア 2社で規制されていない。

## 国内の災害を想定したシステム構成サーバーを国際分散

世界最大のクラウドサーバー事業者である、アマゾン ウェブ サービス（AWS）のデータセンターを利用しています。AWSは、**世界最高水準のセキュリティ**誇っており、国内の金融機関や米国政府なども利用しています。

建屋の耐久性や入退室管理、サーバーの監視などは厳格なルールに則って運用されており、**1年を通じて2,600を超える要件**について、外部の監査機関による監査を受けています。



※シンガポールは、直近の100年間で地震が観測されておらず、津波被害の記録もありません。距離的にも日本と比較的近く、電力事情も安定していることから、当社ではあえてシンガポールのデータセンターをメインとしています。

取得している認証  
トヨコム/AWS

## 負荷検証を兼ねた全契約社対象の一斉訓練

毎年9月1日(防災の日)の前後にご契約中の全ユーザーを対象とした、全国規模で一斉訓練を行っています。

この一斉訓練では、**実際の災害に近い、またはそれを超える規模でシステムに負荷をかけることで、システムが災害時に本当に稼働できるのかを、**お客様ご自身の目で確かめることができます。

更に参加された企業には、回答率の時間推移や訓練全体の平均回答時間をまとめた**訓練レポートが無償で提供される**ため、防災意識を高めるきっかけにもお役立ていただけます。

### 一斉訓練の実績

#### 2021年度

・31万1,987名へ一斉送信  
13時に約14万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

#### 2022年度

・44万1,292名へ一斉送信  
11時に約17万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

#### Good安否確認賞2022 最優秀賞受賞企業様の声

四半期に1度、グループ全体で安否確認の一斉訓練を実施しています。回数を重ねるたびに回答スピードや回答率は向上しているのですが、予告なく発生する自然災害に対しても社員が迅速に対応できるのか、また、管理者が結果を随時把握できるのか、という懸念がありました。「安否確認サービス2」の一斉訓練では、**多くの会社様と同様の条件で、さらに開始時刻が予告されないため、当社社員の対応状況の位置付けが分かり、その後の社内防災体制改善に役立つ**と考えました。また、自グループ内で実施する訓練と比較し、緊張感を持って臨めるという点も有意義だと感じています。



株式会社ガスパル 取締役 黒澤さん

### 安否確認サービス2の自動配信実績

誤報判定のため災害発生後10分間の時間を置いてから、自動一斉送信を開始しています。これは、気象庁が誤報を発報した際に誤った自動送信を防ぐための機能となります。

発生日時	災害種別	災害発生地域 (地震は震央)	最大震度 (波高)	配信完了日時	要した時間
2023-02-25 22:27	地震	新潟沖	震度5弱	2023-02-25 22:41	14分
2022-11-09 17:40	地震	茨城南部	震度5強	2022-11-09 17:54	14分
2022-10-21 16:19	地震	福島沖	震度5弱	2022-10-21 16:31	12分
2022-10-02 00:02	地震	大隅半島東方沖	震度5弱	2022-10-02 00:16	14分
2022-09-18 21:05	特別警報(大雨)	宮崎県北部山回り		2022-09-18 21:18	13分
2022-09-18 18:56	特別警報(大雨)	宮崎県北部平野部、宮崎県北部山回り		2022-09-18 18:48	13分
2022-09-18 16:31	特別警報(大雨)(高潮) 特別警報(波浪)	鹿児島県大隅		2022-09-18 16:42	11分
2022-09-18 16:06	特別警報(大雨)	宮崎県南部平野部		2022-09-18 16:18	13分

誤報判定後 4分で配信

安否確認サービス2では自動配信実績を公開しております。平成30年北海道胆振東部地震では地震発生から自動メール配信完了まで、10分（誤報判定時間除く）という結果でした。配信実績を公開していないサービスが多く不透明であるからこそ、導入検討時にご確認いただきたいです。

#### 自動配信実績の確認はこちらから！

2017年6月20日からの配信履歴を確認することができます。  
<https://www.anpikakuni.com/historical-performance>



# 安否確認サービス2は、平時のメンテナンスも簡単

CSVファイルの読み込みで従業員や部署情報などを一括更新

ユーザー情報のCSVファイルからの読み込み

項目は以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名
4. 読み	5. メールアドレス	6. 電話番号

ガルーンのCSVフォーマットを使用する場合は、以下の順で読み込みます

1. 親ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名	4. パスワード
7. 削除フラグ	8. 読み	9. メールアドレス	10. メモ

更新したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグを空白とし、更新したい項目に値を入力してください。更新しない項目は\*を入力してください。

削除したい場合: 親ログイン名を入力し、削除フラグを\*としてください。

※詳細についてはこちらをご覧ください。

CSVファイルから読み込む[ユーザー情報]-Step 1/2

CSVファイル

ファイルを選択

読み込み対象部署

でもホールディングス株式会社

文字コード

Windows-31Jのファイルとして読み込む(Windows OSなど)

UTF-8のファイルとして読み込む(macOSなど)

ガルーンのCSVフォーマットを利用する

次に、ファイルの中身を確認する

キャンセルする

グループウェアや人事情報システムの情報を同期

人事情報を管理しているシステムと安否確認サービス2を連携させて、メンテナンスの工数を削減することができます。

API認証トークンの発行

API認証トークン: 未発行

API認証トークンを取得する

API認証トークンを発行して 人事システムとの連携設定

ユーザー情報や部署・地域情報、所属情報を半自動的に安否確認サービス2に登録、編集、削除することができます！

※APIとは、異なるシステム同士を繋ぐ窓口のようなもの。連携にあたっては、利用中の社内システムがAPIに対応しているかを確認してください。

ボタン1クリックで従業員や部署情報などを簡単メンテナンス

安否確認サービス2は、SmartHR、freee人事労務、cybozu.com、Google Workspaceと連携しています。



● 安否確認サービス2と SmartHR連携で簡単メンテナンス

トヨコム 安否確認サービス2

SmartHR連携

ボタンを1クリック! SmartHRにログイン

連携を許可

● 安否確認サービス2と freee人事労務連携で簡単メンテナンス

トヨコム 安否確認サービス2

freee人事労務連携

ボタンを1クリック! freee人事労務にログイン

連携を許可

● 安否確認サービス2と cybozu.com連携で簡単メンテナンス

トヨコム 安否確認サービス2

cybozu.com連携

ボタンを1クリック!

連携を許可

● 安否確認サービス2と Google Workspace連携で簡単メンテナンス

トヨコム 安否確認サービス2

Google Workspace連携

ボタンを1クリック!

Googleにログインして連携

各種連携サービスを利用するためには、安否確認サービス2ライトプランより上位のプランのご契約が必要です。また、各種連携サービスの利用料金が別途必要です。

# 安否確認サービス2で安否確認について

# 詳しく知りたい方へ！

安否確認サービス2で「安否確認」を

試したい！

安否確認サービス2で「安否確認」を

相談したい！

## 1 安否確認サービス2の無料お試しを申し込もう！

お試し申し込みURL

<https://www.anpikakunin.com/trial>



※無料お試しは、申し込みいただいたプランで全ての機能を検証いただけます。

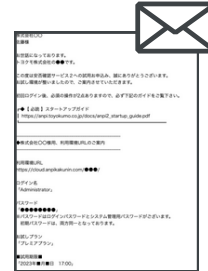
※安否確認サービス2のお試し期間中は、支払いに関する情報は伺いませんので、終了後に自動的に課金されることはありません。

※無料お試し終了後に再度申し込みすることで、何度でもお試しできます。



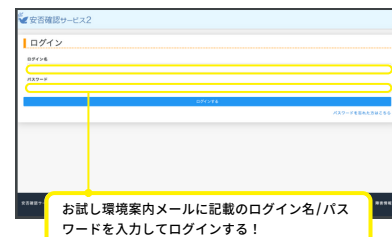
お申し込みフォームに従って入力

お申し込み完了後に担当スタッフよりご連絡します。その後、お申し込みの内容に合わせて、メールでお試し環境をご案内します。



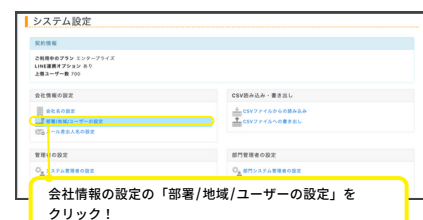
## 2 スタートアップガイドに沿って、機能を体験しよう！

お試しに申し込みした方は、スタートアップガイドに沿って、まずは自分のアカウントを登録！基本機能を使ってみましょう！



ログインパスワードを入力

※システム設定では、会社情報、ユーザーの権限、セキュリティ、外部システム連携などを設定できます。初期状態では、お試し環境案内メールに記載のパスワード入力してアクセスできます。



初期設定を30分で別冊：初期設定が「30分」で終わる安否確認サービス2スタートアップガイド

## トヨクモに相談する

電話相談

メール相談

専門のスタッフが疑問やご相談をお伺いして、お客様に合わせてサポートいたします。

不明点や気になる点など、導入に関する相談をメールで気軽に相談できます。



詳しくは

安否確認サービス2 相談



### ご相談窓口はこちら！

安否確認サービス2の運用、導入について  
お気軽にご相談ください



<https://www.anpikakunin.com/contact>

050-3816-6666

9:00~18:00

toyokumo@toyokumo.co.jp

土日祝を除く